

それでは、おはようございます。私たちの第二礼拝へようこそ。日曜日の朝は、二つの礼拝があります。第一礼拝は、毎週の「聖書預言・アップデート」です。第二礼拝は、聖書を巻ごと、章ごと、節ごとに学んで行きます。今日は、御心なら、「テモテへの手紙第二」の学びを終わる予定です。聖書箇所は、4章の9節から始まり、最後の22節までです。まだの方は、その聖書箇所をお開き下さい。ここにおられる方で、可能な方はご起立下さい。ご無理な方は、座ったままで結構です。私が読みますので、ついてきてください。9節から。使徒パウロは、聖霊によってテモテへ手紙を書いています。

第2テモテ 4章9章から22節

「あなたは、何とかして早く私のところに来てください。」—9節—

「デマスは今の世を愛し、私を見捨ててテサロニケに行ってしまいました。また、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマティアに行きました。」—10節—

「ルカだけが私とともにいます。マルコを伴って、一緒に来てください。彼は私の務めのために役に立つからです。」—11節—

「私はティキコをエペソに遣わしました。」—12節—

「あなたが来るとき、トロアスでカルポのところに置いてきた外套を持って来てください。また書物、特に羊皮紙の物を持って来てください。」—13節—

「銅細工人のアレクサンドロが私をひどく苦しめました。その行いに応じて、主が彼に報いられます。」—14節—

「あなたも彼を警戒しなさい。彼は私たちのことばに激しく逆らったからです。」—15節—

「私の最初の弁明の際、だれも私を支持してくれず、みな私を見捨ててしまいました。どうか、その責任を彼らが負わせられることがありませんように。」—16節—

「しかし、主は私とともに立ち、私に力を与えてくださいました。それは、私を通してみことばが余すところなく宣べ伝えられ、すべての国の人々がみことばを聞くようになるためでした。こうして私は獅子の口から救い出されたのです。」—17節—

「主は私を、どんな悪しきわざからも救い出し、無事、天にある御国に入れてくださいます。主に栄光が世々限りなくありますように。アーメン。」—18節—

「プリスカとアキラによろしく。また、オネシポロの家族によろしく。」—19節—

「エラストはコリントにとどまり、病気のトロフィモはミレトスに残して来ました。」—20節—

「何とかして冬になる前に来てください。ユブロ、プデス、リノス、クラウディア、そしてすべての兄弟たちが、あなたによろしくと言っています。」—21節—

「主があなたの霊とともにいてくださいますように。恵みがあなたがたとともにありますように。」—22節—

わお～、鳥肌がたちますね。使徒パウロがペンを置く姿を想像できますか？ これが、彼が書いた最後の手紙です。

天の御父よ、私たちは共にあなたを賛美し、あなたを畏れ敬っています。私たちは、あなたの御言葉を畏れ敬います。聖霊に導かれた御言葉。今日、私たちに与えられたこの箇所、いのちの御言葉に。主よ、聖霊によって私たちの注意を引き保ち、今日与えられる御言葉の教えを、何一つ見逃すことのないよう、お

導きください。主よ、私たちは、あなただけが満たすことができるものを渴望しています。ですから、主よ、どうか満たして下さい。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください、ありがとうございます。では今日は、"終わりの日のクリスチャン"についてお話ししたいと思います。今日の御言葉を読んでいて、疑問に思うことはありませんでしたか？ 一体なぜこれらの言葉が、聖書聖典に記されるレベルにまで上げられているのでしょうか？ 私たちは、全聖句が神の息吹（靈感）によるのを知っていますが、系図や名前のリストの場合はどうなのでしょう？

正直に認めましょう。皆さん、それらを飛ばし読みしませんか？ 「民数記」を学んだときのことを思い出します。皆さん、笑っておられますね。「民数記」はあまり評判が良くありません。つまり、"退屈でつまらない"との意味で...「民数記」は何に関する書でしょうか？ 数字です。でもいったい何のためにそれを知る必要があるのでしょうか？ あ〜！「民数記」に何が書いてあるかご存知ですか？ それは、今までの私たちの長い間の聖書全体の学びの中で、最も魅力的な研究の一つだと主張します。「民数記」の中には、神の息吹が吹き込まれた、神の靈感を受けた多くの御言葉があります。さて今日の節もそれと同じです。ここに理由があります。それが聖書に書いてあるのには理由があります。今の時代の私たちにとって、意義も関連もなさそうなのは理解できますが、パウロはこれらの名前をリストアップし、彼らが誰で、何をしたのかを少しだけ具体的に話しています。そして、聖書にこれが書かれているのは、私たちへの模範であると同時に、この終わりの日の、私たちへの警告でもあるからだと思います。私がそう思う理由を説明します。パウロが名前を上げているのは全部で17人です。念のため2回数えました。今数えないでください。数えたいなら、礼拝が終わってからにしてください。しかし、彼は17人の名前をリストアップしていて、そしてこれが、彼の最後の手紙です。彼はたった今、テモテに「終わりの日にはこうなるんだよ」と言い聞かせたところです。危険な時が来る。もはやパウロがいなくなるその時のために、テモテに備えさせているのです。そして、彼のために用意されたものに備えさせるため、パウロは全力を尽くしています。ですから、この名前のリストには学ぶべき教訓があり、注意を払うべき警告があり、見るべき例があるのです。彼らのことについて学ぶ中で私の願いは、聖霊が、私も含めて皆さんの心を探ってくださいることです。聖霊に自由に皆さんの心の奥底へアクセスしていただき、全てを明らかにして下さるようになるのです。主はいつもとても優しく、慈悲深く、良き羊飼いです。ですから聖霊に、自分がどのようなタイプのクリスチャンであるかを、またこの終わりの日に、私たちは、どんなタイプのクリスチャンに遭遇するのを示して頂くのです。これから話すのは、8つのタイプのクリスチャンです。もっとあるかもしれませんが、私は8つを見つけました。考えられるべき8つのタイプです。最初のものは9と10節にあり、"世俗的な裏切り者たち"です。クレスケンスとテトスがパウロの所から去った理由は不明ですが、デマスが去った理由は、はっきりしています。それは彼がこの世と、世の物を愛していたからだと言われていて、本当に悲しいことです。デマスは一時は、パウロととても親しかったのです。パウロは、「コロサイ人への手紙4章14節」で、彼を同労者だとさえ語っています。「ピレモンへの手紙2章4節」でも、デマスが同労者であったことを述べています。今ここでテモテ宛に、彼は自分を見捨てたと話しています。裏切ったその理由は「世への愛」が原因だと言っています。使徒ヨハネは、「**第一ヨハネ2章15～17節**」でこう語っています。

「世も、世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません」—15節—

理由は、

「すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。」—16 節—

「世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。」—17 節—

皆さんも、親しみを込めて“愛の使徒”と呼ばれた、使徒ヨハネを、愛するべきです。しかしヤコブについては、そうはなりませんね。その理由が分かりますか？ ヤコブは、救い主の異父兄弟だったからです。完璧な異父兄弟と、同じ家で育つのが想像できますか？ ママとパパはいつもこう言います。「なんでお兄ちゃんみたいに部屋を綺麗できないの？」「だって彼は神の化身でしょう？ たぶんそれが理由だよ！！ 私は面白がってそう言っているのではありませんが、「ヤコブの手紙」を読んだ後、ホー！となる理由がわかります。この書は読んで楽しいものではありません。「ヤコブの手紙」を読むのには忍耐が必要です。読み終わった後、「私は本当に救われているのだろうか？」とってしまうような書です。つまり、彼は手加減せず顔面パンチを入れてきます。4章4節がまさにそのケースです。彼は言わば単刀直入です。ズバリ核心を突きます。「あなたがたは節操のない者たちだ！」そんな始まり方はいかがでしょう？ 今日の教会でそれを説けば、人々は我慢できないでしょう。「今何て言った？ この先の教会に行こうと。そこの牧師さんは愛を語るだけだも〜ん。」「私を節操のない者と呼んだな？」「いや、私は呼んでいません、私ではありません。ヤコブが御言葉で言っているのです。聖書が語っています。」それが私の主張で、そういうことにしておきます。「節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。」ですから「世の友と”なりたい”と思う者はだれでも、…」彼らはその”選択” (=キーワード) をしたのです。この男は、世の友となる”選択”をし、「…自分を神の敵としているのです。」霊的不節操な者です。世の友となるなら、あなたは霊的姦淫者であるだけでなく、神の敵でもあるのです。この男がしたように、あなたが態度を翻し、世との友情を追求し、世と世の物への愛を追求するとき、自分を神の敵と位置づけているのです。

2つ目は11節の最初の部分にあり、“忠実な信者”です。これは興味深いですね。ここでは、パウロはルカだけが自分のために一緒にいたと言っています。ルカを除いて、彼はひとりぼっちでした。ルカが誰だか分かりますか？ まず、彼はパウロの主治医でした。ルカは医者でした。神が靈感を与えて「使徒の働き」だけでなく、彼の名を冠した福音書も書くようにされたあのルカです。彼は、最後まで忠実な人でした。忠実で誠実な人の重要性について、どんなに言ってもいい過ぎることはありません。特に、私たちが生きている今の時代はそうですね。忠誠心は、今のキリスト教会においては忘れ去られた芸術でしょう。今や忠誠心などはありません。まったくこの時代のしるしです。そのルカの忠誠心が、今の世界に際立っているのです。救い主が、大いなる終わりの日に、「よくやった。良い忠実なしもべだ。ここに入りなさい。」と言われます。ここで注意すべきことは、“良い実り多いしもべ”ではなく、“良い生産的なしもべ”でもなく、それは、“良い忠実なしもべ”なのです。

「あなたは、最後の最後まで忠実でした。」どれだけの実を結んだか、どれだけの善行をしたかで決まるものではありません。違います。誠実さです。“良い忠実なしもべ”。彼は、誠実で忠実な人でした。そして私が思うに、パウロはこの時、本当にルカを必要としていました。

3つ目。これには少し時間をかけたいと思っています。理由はすぐに分かります。11節の後半にあります。私が言うところの、“成功した失敗”です。私にとってこれは、神が、私たちの戸惑いや失敗を、いかに圧倒的な成功と勝利に変えて下されるかを示す、最も勇気づけられる例の一つです。マルコです。マルコって誰だか分かりますか？ マルコとはどんな人でしたか？ この人は、第一次伝道旅行でパウロを

見捨て、失望させたあのマルコです。宣教開始の初期で、彼は脱落し、本当に使徒パウロを失望させました。二回目の伝道旅行の時、(使徒の働きに記録されていますが、パウロとバルナバです。)パウロはバルナバに「一緒に行こう。」と声を掛けます。「私たちが始めた教会が、どのようにしているか見に行こう。バルナバはマルコの叔父で、パウロにこう言います。「マルコにEメールで連絡し、一緒に来るように言いましょう。」パウロ：「あー、ダメだ。」バルナバ：「なぜダメなのですか？」パウロ：「そうはいかない。」「使徒の働き」には、それが原因で激しく衝突したと記されています。パウロとバルナバの口論が激しくなり、二人は分裂しました聖書を読む限り、二人が和解したという記録は残っていません。全てはマルコのせいです。パウロは、マルコを連れて行けないと言います。「彼は信用できない。最初の頃に逃げ出した...無理だ。」そして、それから何年も経った今、パウロは人生の最後に、誰を求めていますか？マルコです。ワォ、何があったのでしょうか？「パウロ、マルコですか？あの同じマルコですか？(当時は沢山マルコと言う人がいたはずです。)あのマルコですか？」「ああ そうです。」何があったの？ああ～！神だけが御出来になれる方法で、壊れていたパウロとマルコの間関係を修復してくださったのです。それだけでなく、神はこのマルコを鼓舞し、自分の名前を冠した福音書を書くようになさるのです。要点は何でしょうか？絶対に人を見限ってはいけない、ということです。あなたから逃げ出したマルコも、あなたを悲しませ、失望させたマルコについても、絶対に諦めてはいけません。失敗を回復なさるのが神のお仕事です。鏡の中の自分を見てください。神が回復してくださった、最初の事例がみられます。神は、ご自身にしかできない方法で、私たちの失敗を用い、それを調和させ、言わば編集し、そこから成功を生み出すことがお出来になります。さらに言うと、主と共に歩んできた長年の経験の中で、失敗は、失敗の中で学んだ教訓のために、本当は失敗ではなかったということ、私自身が経験してきました。皆さんの人生を振り返ってみても、もしそれがなかったら、今のように、主のもとにはいなかったらと思うことがよくあると思います。神はすべてを良いものに変えられます。試練のなかで学ぶのです。それがマルコの身の上に起こったのです。このことは、何と言ったらいいかマルコに関するこの美しい記述を損ないたくないのですが失敗の経験がない人たちって、私が信じるに、一度挫折を経験すべきです。最初に、どん底に落ちる必要があります率直に言って、失敗する必要がありますその杯を味わう必要があります。挫折の杯から深く学ぶ必要があるのですなぜならそうしない限り、神があなたを回復されるときに、その恵みの甘い杯から味わうことができないからです。ペテロのことを考えてみてください。彼は主を裏切っただけでなく、主を知っていることすらも否定したのですしかし、神は。3度も彼を回復させられました。ペテロは主を3度否んだので、イエスは3度ペテロを回復されたのですそれはとてもパワフルで、感情的なもので、ペテロはただただ、心が砕かれました。なぜならペテロには何が起きているか分かっていたからです。なぜなら、イエスを知らないと言った3度目の時、主と目が合ったのです。イエスはペテロを見られました。しかし、嫌悪感や軽蔑の目で彼を見たとは決して思わないでください。愛と慈しみの目でペテロを見ておられます。実際イエスは、ペテロがそうするのを予告もしておられました。そしてペテロはそれをしてしまい、しかも、自分のやったことが信じられませんでした。その後、イエスは彼を回復させ、ペテロは、ただただ激しく泣いたのです。神は回復の神です。神は人々の過ちに目を留められるお方です。福音書の中でイエスは、どんな人に目を向けておられますか？エリートでもなく、成功者でもありません。打ちひしがれた者、失敗した者、落ちぶれた者、弱者、小さき者、最も小さき者、イエスが目を留められるのはそのような人たちです。実際、救い主の口から出た最も厳しい言葉とは、当時の宗教指導者たちへのものでしたしかし、心の傷ついた人、悲しみに沈む人には、ああ、ただ

愛、愛と憐れみと回復です。

4つ目は "信頼された執事" です。これは12～13節に出てきます。パウロが、エペソに派遣したと思われるティキコについては、具体的には語られていません。でも、カルポという名前の男の話になるとパウロはまだトロアスにいて、そのあと「外套が必要です。」と言ってます。パウロが牢獄されていた地下牢は、とても寒いのです。彼はテモテに、自分の大切な財産のすべてをこのカルポに託したことを伝えます。逮捕されれば、全てをローマに没収されることを知っていたのでそうしたのでしょう。皆さん、私が何を言おうとしているか分かりますか？ 使徒パウロが最も大切にしていたもの、それは、神の御言葉が書かれていた羊皮紙の巻物（聖書）です。それらが彼の最も大事にしていたもので、その大事なものを、彼はカルポに託したのです。だからこそ2000年後の今、私たちが"信頼された執事"であるカルポという名を読んでいられるのです。彼に頼めば、私のために預かってくれます。彼は信頼できる人です。これはおそらく、私たちと聖霊の間だけで、「自分は信頼に値する人間だろうか」と、尋ねるよい機会ではないでしょうか。「私は、神から託されるものを受け取れる、信頼できる執事なのだろうか？」多くのものが与えられた者には、多くのものが要求されます。イエスは、財産を預けられた執事が、自分に託されたものを使って何をしたかを説明されるため何度も喩えで教えられました。14節から18節までは話が変わって、アレクサンドロについて語ってます。実は、パウロは「テモテへの第一の手紙」でアレクサンドロについて初めて言及し、パウロはテモテに、彼をサタンに引き渡さなければならなかったと言っています。(第一テモテ 1:20節参照) 宜しくないですね？ これは私が、"危険な詐欺師"と呼ぶものです。私がおのように言い、そう呼ぶのは、このアレクサンドロが実際には、パウロに敵対し密告者であったと信じられているからです。想像してみてください。パウロは自分の裁判について言及していて、テモテに、裁判はうまくいっていないことを伝えています。「みんな私を見捨てた。誰も私に代わって証言してくれない。」その時代は、今の時代とは異なり、あなたに出された不利な証言に対し、あなたを支持する人たちの証言も集め、そして裁判官が判決を出すこととなります。そこには誰もいませんでしたが、アレクサンドロはいたようです。彼はパウロに不利な証言をしました。アレクサンドロは、パウロに対し、不利な情報提供者だったという説もあります。パウロは、アレクサンドロが自分に多くの害を与えたことを語り、だからこそテモテに、警戒するように伝えています。「この男には気をつけなさい。テモテよ。私はもう長くありません。アレクサンドロには注意しなさい。彼は危険な男で、彼は私に多大な被害を与えました。」何が興味深いかわかりますか？ パウロの反応です。救い主の御前で、彼が祈ったのは、「彼や他の人たちが彼と一緒にいても、責任をおわせられることがありませんように」です。正直言うと、私は最初のうちはそうはいかないかもしれません。ああ、もちろん彼のために祈りますよ。「神よ、彼を捕まえてください！」つまり、詩篇でダビデが言ったように、

「神よ 彼らの歯をその口の中で折ってください。」(詩篇 58:6)

窒息するように！ それは書いてありません。JDV 訳：JD 牧師訳です。その理由は、だからこそ因みにイエスは、敵のために祈りなさいと仰いました。(マタイ 5:44 参照)

それには理由があります。その理由は、あなたが祈っている人に怒り続けることができないからです。こういう風に、少し歯を食いしばって祈り始めるかもしれません。

「主よ、しゅ、しゅ、しゅ、」「フォンツ※」みたいに、彼は決して「ごめんなさい～」と言えませんでした。彼は決してそれを言えなかったのです。※テレビドラマの登場人物。そして、決して祈ることはできません。簡単には出てきませんか？ こんな感じです。「主よ、彼らを、しゅ、祝福してほしくない！！」

私たちは主に、彼らが私たちにしたことへの仕返しをしてほしいのです。しかし、これがどのように作用するかですあなたが、神が彼らを祝福してくださるよう祈り始めると、あなたは彼らを赦し、彼らを恨だままではいれません。すると突然、あなたは神が彼らの人生を祝福されることによる特権を受け、それが、あなたの彼らへの見方を全て変えます。たとえ関係の修復や和解ができなくとも、あなたの心の中のわだかまりは何もありません。恨みはない。悔しさもない。それらがあると、あなたを傷つけるのです。ヘブル人への手紙の著者は、

「その種に芽を出させてはいけない。あなたを汚すことになる。」(ヘブル 12:15 節参照)

と語っています。あなたは彼らを赦す必要があります。次に進む前に、ここで指摘しておきたいことがあります。それは、他に誰もいなかったのにも関わらず、主が自分のそばにおられたとパウロが語っていることに関係があります。主はパウロと共におられました。彼は一人ではありませんでした。主は彼の味方であっただけではなく、主は彼を力づけ、獅子の口と思われるものから彼を救い出されました。つまりパウロが、獅子の口に投げ入れられて生き残った可能性が非常に高いです。しかし、テモテにこれを書くことで、彼は最も重要なことに触れています。少なくともそれを見ておかなければ、私達は大きな過ちを犯すことになるでしょう。人生にはたくさんのアレクサンドロがいますよね？ "私たちを傷つける人"一害を与える人が。私の人生のアレクサンドロについて私が学んでいることの一つは…たくさんいらっしゃって、私にはかなりのリストがあります。彼らはすべて本土にいます。この島にはいません。免責条項といったようなものです。しかし、私が自分の人生で学んでいるのは、人が自分に何をするかではなく、イエスが自分のために何をしてくださったかです。あなたが神の恵みを受け入れ、神の赦しを受ける側になった時、次第に、あなたは赦せるようになるのです。主よ、私たちに罪を犯した者を赦すように、私たちの罪をお赦しください。(マタイ 6:12 参照)

「ああ、でも、彼らは本当に私を汚しました。本当に私を傷つけ、彼らは私に多くの害を与えたのです。」

「ええしかし JD、彼らがあなたに何をしたかではありません。イエスがあなたのために死んでくださったのです。」そしてそれが全体の様相を変えるはずですよ。それによって私は、彼らのために祈ることが出来るのです。そうやって相手を赦せるようになるのです。あなた自身が神の赦しを受け続ける側にいるからです。恨みがあるときの、夫婦関係を考えます。それがどんなものかご存じですね？ 私の結婚生活の話ではありません。私は牧師ですから、完璧な結婚生活を送っています。(笑) あなたが相手を無視する時、どうなるかご存じですか？「私は謝らない。相手が謝る必要がある。」時にはそれが何日も続くこともあり、あなたはこの恨みや憤りを抱えているだけです。そのまま放置しておくと、それは苦いものになります。繰り返しになりますが、それはあなたを破滅させます。あなたの結婚生活を破壊します。主はそれをご覧になっておられます。「お互いに無視しているように見えますね。」—「そうです！」「ふむ…相手があなたを不当に扱ったのですか？」—「そうです！悪いのはあっちの方です！あっちが私に謝罪し、ごめんなさいと言うべきなのです。」「分かりました。では、あなたは許すつもりはないのですか？」—「許さない！相手が土下座して私の所に来るまでは！」「話があります。こちらに来なさい、坊や。」私にはそう聞こえるのです。

「私があなただけを赦したすべてのことを、あなたに思い出させる必要がありますか？ ああ、もし、あなたが彼らにしていることを私があなたにしたなら、それは良いものではないでしょう。私はあなたを赦したのに、あなたは赦さないままです。それはどのように作用するのでしょうか。大切なのは主があなたのためにしてくださったことです。彼らがあなたにしたことではありません。19 節に 6 つ目があ

ります。私はこれを”堅固な渦”と呼びます。良く聞いてください。私たちは”堅固な渦”を好みます。

「使徒の働き 18 章 1 から 2 節」に、パウロがコリントにいたとき初めてプリスキラとアキラ（夫婦）に出会ったことが記されています。彼らはパウロと同じように天幕作りの仕事をしていました。使徒の働き 18 章 26 節から、プリスキラとアキラがパウロ※をわきに呼ぶほど彼らはとても、とても良い友達だったようです。これはパウロ※の宣教初期のことです。彼らはただ彼を優しく正し、もっと正確に説明したのです。パウロ※が偽りを教えていたわけではありません。それは、パウロ※により正確さが欠けていただけで、彼らは彼をわきで呼んで、パウロ※は彼らから説明されたのです。（※正しくはアポロ/次週の聖書の学びを参照ください）ちなみに、それが友達です。

「愛する者が傷つけるのは誠実による。憎む者は多くの口づけでもてなす。」（箴言 27:6）

友達は、あなたは聞きたくなくても、聞く必要のあることを教えてください。逆に、敵はあなたが聞きたいことを話し、あなたが聞く必要があることは言いません。最初のうちは、聞きたいことを言ってもらえ嬉しいかもしれません「ああ、本当にありがとうございます。私のことをもっと話してください…」

しかし、私が保証します。最終的には、あなたはそれを恨むことでしょう。「なぜ真実を言わなかったのですか？ あなたは私を愛していないはずです。愛をもって真実を語るほどは、私を愛してはいなかったのですね。」そしてまた逆に言えば、自分を脇に呼んで教えてくれるほど十分に気にかけて、愛してくれる人が友達なのです。「やあ、JD、えっと…これを共有して、訂正してもいいでしょうか？ 私はあなたを正す必要があるのです。」「いや、あなたが私を正すことなどありません！私が誰か分かっていますか？」—いいえ、あなたは何者なのですか？ 誰か彼が何者か知っていますか？ どうやら彼は必要以上に自分自身を高く評価しているようですしかし、パウロ※は教えを受け入れ、正されることを受け入れる者でした。これだけの年月を経て、おそらく 30 年以上経っていると思われませんが、確かなことはわかりませんが、彼は彼らに愛を送っています。何が興味深いかわかりますか？ この夫婦はまだ壮健だということです。それが”堅固な渦”です。彼らは安定した人達で、結婚生活も宣教活動も堅固な土台で、私は、パウロがこの夫婦に本当に感謝していたと信じています。それから何年も経ち、自分が死ぬのは時間の問題だと分かっており、パウロは彼らに確実に愛を送りたいのです。”堅固な渦”の皆さんに喝采を送ります。私たちはあなたを愛しています。私たちはあなたが必要で、人生において、プリスカとアキラのような堅固な渦が必要なのです。

20 節、7 つ目ですこれには少しだけ時間をかける必要があるかもしれません。これは、ある意味デカイです。それは私が、”苦しみのしもべ”と呼ぶものです。最初に読んだときには、なぜ神がパウロにトロフィモという男の名を挙げさせる必要があると思われたのか、という疑問が湧いてくるかもしれません。すべての聖句は神の靈感によるものなので、理由があるはずで、では、その理由とは何でしょうか？ その理由とは、彼は、長期間の病と苦しみの病床にいる多くのクリスチャンのことを表現していると言わせていただきます。そして、どんな理由であれ、神は彼らを癒しておられません神は、彼らが苦しみながら長期間病床で過ごし続けることを、許しておられます。パウロはこのように言いました。

「私は彼をそこに残して来ました。彼は重い病気です。彼は病床にいます。」繰り返しになりますが、これが書かれているのは、人生において、この苦しみと病の床にいるトロフィモのような人々への励ましになるからだだと思います。神は決して、あなたを見捨てておられません。実際時に、私たちが一番主に近づき、主が一番近くにいてくださるのは、苦しみや病の中なのです。主は決して病人を見捨てることはいません。その代わりに、彼らは大きな苦しみの中で大いに慰められるのです。ところで、栄光の中で

何が彼らを待ち受けているのでしょうか？

「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取る。」(詩編 126:5)

言葉にならないほどの喜びです。さて、これが最後の 21 節と 22 節へと繋がりますこれについて、私が感傷的になるのお許しください。これらは "恵みに溢れ励ます人"ですパウロが書き終える前の最後の別れの言葉で、彼は一言で言えば「恵み」について言及していますそして、これらの挨拶を送る、恵みに溢れた励ましの人たち、優しい兄弟姉妹たちの名前を列挙しています。それが彼の終わり方です。励ましがいかに大切かということについてももう少し話す以外に、この教えと第二テモテへの手紙を締めくくるのにより良い方法は思いつきません。テサロニケ人の教会への最初の手紙、4 章 17 節の携挙の文脈の、使徒パウロのことを考えます。その章の最後で、彼らはただ戦いに疲れ絶望していたので、パウロは彼らを励まそうとしたのです彼らは携挙を逃したとっていました。パウロは「いや、あなたがたは携挙を逃してはいない。」と。

「まずキリストにある死者がよみがえりそれから、生き残っている私たちが彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、(携挙され) 空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」(テサロニケ人への手紙第一 4 章 16-17)

彼は続けて、携挙について詳しく語っています。そしてその話が終わった後、彼は次のように語っています。

「ですから...」聖書の中で「ですから/ したがって (therefore)という言葉があるのは、その言葉がそこにある理由がある (there for)からです。言葉遊びだと分かっていますが、事実です。"ですから "は何のためにあるのですか？ ああ、それは彼らの励ましのためにあるのです。彼はこう語っています。

「ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。」(第一テサロニケ人への手紙 4 : 18)

ただの空しい励ましではありません。背中を叩いて「おい、元気出せ！「分かりました。明日から頑張ります。励みになります。」いえ、そうではなく…、これらの御言葉(聖書)によって励まし合いなさい。御言葉によって励ましを受けるのです。あなた方が、今もなお互いに励まし合っているように。私が言いたいのは、このテサロニケの教会は、因みにこれは、パウロのまさに最初の書簡であり、第二テモテは最後の書簡、締めくくりのようなものです。一緒に考えてみてください。最後の最後に、彼はこの言葉で励まされ、この言葉をもって互いに励まし合いなさいと語っています。テサロニケの教会にいたクリスチャンたちは、お互いを命綱としていたような印象を受けます。パウロが述べたように、彼らは互いに励まし合っていました。時に必要な全ては、たった一つの励ましの言葉だというのは真実ではないでしょうか。それは適切に語られた言葉です。時には、それはただ背中をポンと叩いたり、ハグしたりすることです。もしかしたら、誰かの「君のために祈っているよ。本当に大変な経験をしているんだね。」という言葉かもしれません。

「私はあなたを励ましたいのです。神にはご忠実でご真実なお約束があります。神は決してあなたを見捨てず、決してあなたを離れることはありません。あなたのために祈っています。あなたが励まされますように。」そして、ただ泣く者と一緒に泣き、嘆く者と一緒に嘆くことかもしれません。たまには、泣くのもいいですね？ 良く泣いた後、気分が良いのはご存知ですね。その理由をご存じですか？ 体内に溜まっている毒素を排出するからです。神は私たちを解放させるために、泣くように造られました。時に、あなたが泣きたくなるのは、後でとても良い気分になることを知っているからです。だから私は泣くのです。またもや、それは私の主張ですが、そういう事にしています。パウロは泣きました。ちなみに

使徒の働き 20 章です。3 年間、毎日、毎晩、一日中、一晩中、彼は泣いたのです。なぜなら彼は、羊の皮を被った狼が彼らの中から出て、群れを荒らすことを知っていたからです。私はこんな風に言うのが好きです。「パウロは男らしく泣いた。」「イエスは涙を流されました。」いかがでしょうか？時には、良く泣くことはとても励みになります。ただ、誰かと一緒に泣くことです。彼らの話に耳を傾けてください。彼らの心の内を吐き出させてあげて下さい。"なんでもすぐ修復したがるクリスチャン"になろうとしないで下さい。何が言いたいかわかりますか？ これはメモにはありませんが、私がこれを持ち出したので、お話しした方が良いでしょう。私たちはいつも、「やあ！」と無神経的に始めようとします。そんな言葉はありませんが、あるとしましょう。私たちは鈍感なんです。この方が良いでしょう。私達はすぐ聖書の引用を始めます。

「... 温まりなさい、満腹になるまで食べなさい…」(ヤコブ 2:16 参照)

そうではありません。彼らに言葉は必要ありません。彼らには肩が必要なのです。泣くための肩が必要なのです。彼らは、十分に安心して心を打ち明けられることのできる兄弟や姉妹を必要としているのです。そばにいることは、恵みに溢れた励みになるでしょう。時に、ひと言の励ましの言葉があればひと月くらいは大丈夫です。たくさんは必要ないのです。こんな感じです。「わあ…本当にそれが必要でした。それは主でした。」「その励ましの言葉が本当に必要でした。ぴったりの言葉でした。」ああ、今や新しく軽やかな足取りで、あなたの唇には新しい歌があります。恵みに溢れた励みしの人になりましょう。お立ちください。祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。愛する天のお父様今、これがパウロの最後の手紙だと知るとこの手紙を学び終えることには私達の心の中にほろ苦さがあります。でも同時に、ここには持ち帰れるものがたくさんあります。聖霊が私たちの心に祝福を与え、私たちの人生に適用することができるよう、そのプロセスを始めてくださいように。もしかしたら少し罪の認識があるかもしれませんが、罪を悟ることは良いことでしょう。罪を責めるのではなく、罪を悟ることです。主よ、今日私たちが読んで知るために、あなたが聖句に含めるべきだとされた人々を見る中で。ですから主よ、あなたは私たちに何を知ることが望んでおられるのでしょうか？それについて、あなたは私たちに何をすることを望んでおられるのでしょうか？ 私たちは、ただ御言葉を聞くだけの者にはなりたくありません私たちはあなたの御言葉を行う者となり、御霊があなたの教会である私たちに語られることを、心に留める者になりたいのです。イエスの名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7